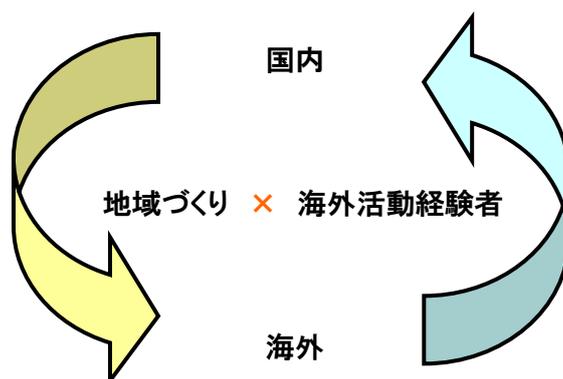


日本の経験を海外へ、海外の経験を国内へ

海外農業開発協会は、我が国農村地域振興のために農村活性化の担い手となる人材の育成システム構築に向けて取り組んでいます。農林水産省農村振興局の平成20年度「田舎で働き隊！」事業の実施機関としても選定されました。



技術協力の分野では、日本の農業・農村開発の経験を活かした活動が行われていますが、当該分野の海外での経験を日本国内に活かす体制は、現状では十分とは言えません。海外での経験を日本に還元する体制の構築を見据えながら、田舎で働き隊！事業(農村活性化人材育成派遣支援モデル事業)に取り組みました。

この取り組みを契機に、NGO職員、青年海外協力隊員や技術専門家など海外で農業開発に係わった人材と受け入れニーズのある農山漁村とのマッチングを協会事業の一環として継続することを構想しています。多様な人材を農山漁村に向かわせる体制が整えば、日本農村の活性化に大きなインパクトを与えると確信します。また、農村地域の活性化、農業振興が実現すれば、地域に根ざした海外農業協力を携われる人材が輩出され则认为ます。

問い合わせ先

〒107-0052 東京都港区赤坂 8-10-32 アジア会館 3階

社団法人海外農業開発協会 農村活性化人材育成システム担当:小山

Tel: 03-3478-3510 E-mail: kasseika@oada.or.jp

HPアドレス: <http://www.oada.or.jp>

参考情報:

* 農林水産省ホームページ「田舎で働き隊！」事業

<http://www.maff.go.jp/j/press/nousin/kouryu/pdf/090223-01.pdf>

平成 20 年度「田舎で働き隊！」事業活動の実績

本事業では、農村活性化のために都市部等の人材を仲介する業務および実践研修の企画・実施に対して農林水産省から補助金が交付された。国内で農村活性化活動を行っている長野県の NPO 法人農と人とくらし研究センター、群馬県の NPO 法人自然塾寺子屋と共に、以下の事業活動を実施した。平成 20 年度二次補正予算で実施のため、研修期間は平成 21 年 3 月下旬の 8 日間であったが、以下の研修成果を上げることができた。

A. 長野県岡谷市周辺	B. 群馬県甘楽町周辺
<受入地域の課題> 耕作放棄地の有効利用	<受入地域の課題> 衰退する特産物生産とそれを取り巻く文化の継承
<受入地区の課題背景> 岡谷市周辺では、小規模経営の農家が多く、農業者の高齢化や後継者不足、鳥獣害の増加などが原因で遊休荒廃農地が年々増加している。こうした状況の中、自治会、農業婦人グループ連絡協議会、農産物直売所「岡谷市地域野菜生産消費振興組合」等の住民組織が地産地消や搾油用ひまわり栽培などに主体的に取り組む事例が見られるようになっている。	<受入地区の課題背景> 富岡市周辺は典型的な中山間地域で、古くから養蚕、蒟蒻、椎茸などの生産・加工が盛んに行われ、それに伴う技術や文化が引き継がれてきた。しかし、近年の貿易自由化などの影響により、これら特産物に係わる産業が衰退し、地域農業構造が転換期を迎えている。こうした状況の中、グリーンツーリズムや少量多品目栽培など新たな地域づくりの試みが農業者活動組織を中心に進められている。
<研修内容> オリエンテーション、講義、フィールドワーク	<研修内容> オリエンテーション、講義、フィールドワーク
<受入地区の地域社会組織> NPO 法人 農と人とくらし研究センター	<受入地区の地域社会組織> NPO 法人 自然塾寺子屋
<研修人材> 以下の意欲または技能を備えた 6 名を受入れた。 ● 農村活性化に意欲のある元気な人材 5 名 ● 耕作放棄地を地図上に記録できる人材 1 名	<研修人材> 農村活性化に意欲のある人材 4 名を受入れた
<研修成果> ● 区民農園が開設された(約 180 坪)。 ● 耕作放棄地の分布状況を示す地図が作成された。	<研修成果> 地域特産物のこんにゃく、ばれいしょ、しいたけ、乾燥芋について理解し、生産に係わる基本情報を取り纏めた「地域資源ガイド」が作成された。

a. 長野県岡谷市三沢区での実践研修



研修参加者が現場を歩いて調査し、耕作放棄地を区分した地図を作成した。現状を理解し、対策を検討するために活用されている。



実践研修中にこの耕作放棄地(約 180 坪)を開墾することとした【開墾前】。



【開墾中】上の写真で示した耕作放棄地を研修生が協同して開墾した。



【開墾後】整地され、8 区画に整備された。現在、区民農園として管理され、40 名を超える区民が利用を希望している。



区民農園ではヤギを飼育する予定である。「ヤギ飼育の基礎」について八ヶ岳中央農業実践大学校にて半日の講義・実習を行った。



研修生は、耕作放棄地から取り除いた灌木や林野の間伐材などの薪割りを体験した。

b. 群馬県 甘楽富岡農村大学校での実践研修



研修参加者は、甘楽富岡地域の農業・地域について広く全般に理解した。



小野こんにやく研究会では、こんにやく芋の選別作業を行い、こんにやくの歴史や生産情報などについて生産者から聞き取りを行った。



那須地区は標高 800m 近く、斜面でばれいしょを栽培している。実践研修当日は、種イモの植付けを行った。



甘引乾燥芋組合では、収穫した芋を加工(乾燥)するパイプハウスのビニール張替えを生産者と実施した。



特産品の生産現場を体験し、その歴史・文化的背景について取り纏めた「地域資源ガイド」を作成し、研修関係者に対して報告した。

農村活性化人材育成システム構築に向けた取り組み

農村活性化を担う人材確保・育成のため、短期的目標として以下の仕組み作りを進めています。人材募集では、主に3つのルートを構築、1)青年海外協力隊 OB・OG 会を通じた海外の農村で活動した経験を持つ人材、2)農業系大学農村開発等研究室を通じた農村活性化に取り組む意欲ある若い力、3)当協会のホームページを通じた社会人、海外駐在経験者や定年退職者など、広く人材の募集を行います。

受入地区については、多くのマッチング対象を確保するため、既存のネットワークを強化しながら、地理的なネットワークを徐々に広げます。

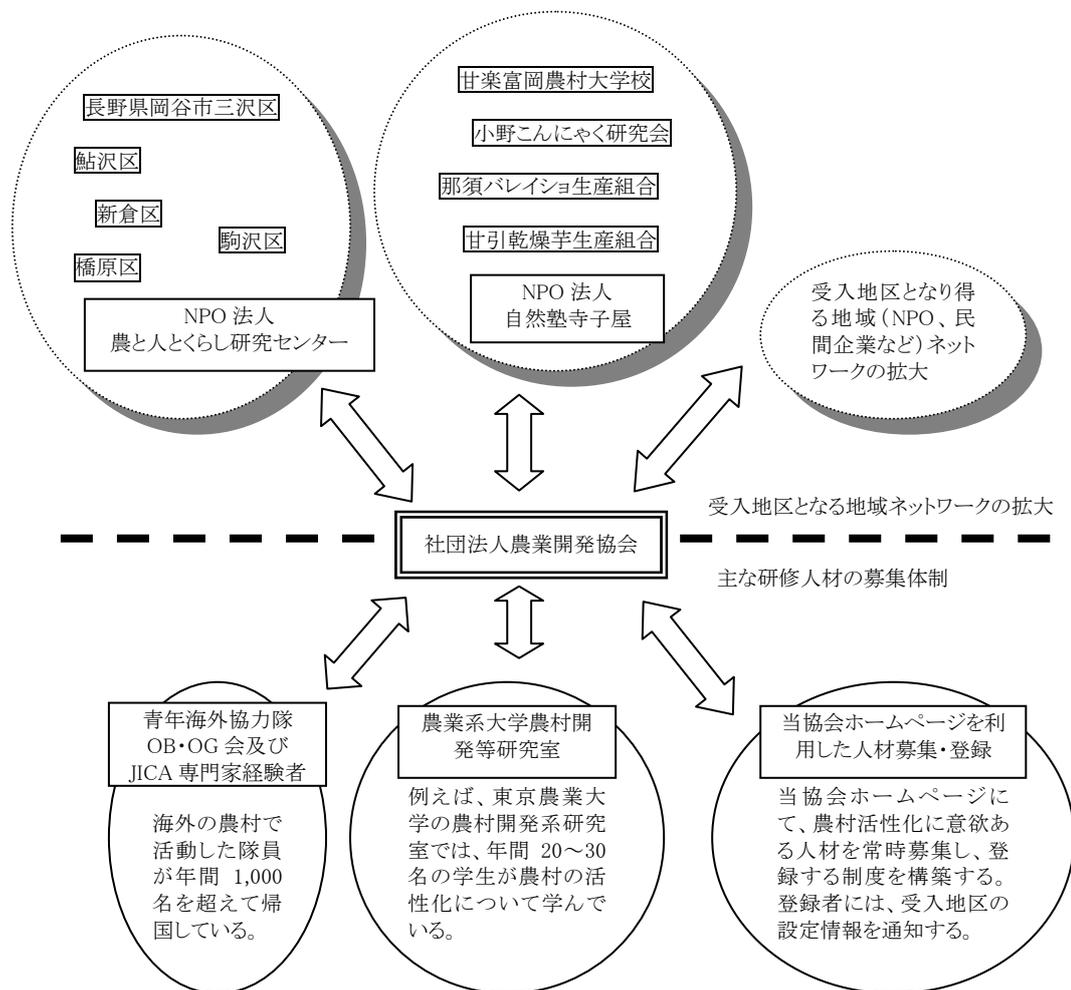


図1. 農村活性化を担う人材確保・育成のための今後の仕組み作り

農村活性化に熱意ある人材の登録を予めオープンに行い、受入地区ニーズに応じて迅速に仲介できる体制を整え、**研修人材**、**受入地区**、**研修講師**や**見学先**のデータベース化を進めていく計画です。興味をお持ちの方は、前記の問い合わせ先にご連絡ください。